



愛川ふれあいの村 今月の風景

2020年6月 自然のたより

人の気配がない村にはさまざまなお客さんが訪れます。毎日のようにシカが訪れるようになりました。鳥の雛は巣立ちをしたものの、まだ親に甘えている様子。今年特徴的だったのは、草刈りを遅らせたためか、今までは気が付かなかった花に出会うこともできました。もちろん毎年変わらずに花を咲かせる植物たちも村の魅力のひとつです。その植物を食べて大きく育つ生き物たちと、命の循環が成り立っているこの村をあたたく見守っていきましょう。(石川)



ヤマボウシ



シカ



オオルリ



カメムシたち



ヤマハタザオ



ビワ



ミヤコグサ



チチミカヤゴケ



モンシロチョウの羽化



お母さん、ちょうだい



サンゴジュ



ホタルブクロ



ヤセウツボ



ウツボグサ



サイハイラン

トピックス ★カラスの話★

日本サッカー協会のシンボルマークをご存知ですか？実は3本足のカラスがボールをトラップしているデザインです。そもそも3本足のカラスで知られる『八咫鳥（ヤタガラス）』は、日本神話の中で神武天皇が東征の際、熊野神社から大和の国へ案内したのがこのカラス。サッカー日本代表の胸にも3本足のカラスがさん然と輝いています。

さて、海辺でも街でも山でもどこにでもいるカラスですが、よく見かける2種類がいます。それはハシブトガラスとハシボソガラスです。よく観るとはっきりと違いがわかります。ハシとはクチバシのことです。クチバシが太いのが、ハシブトガラスで細いのがハシボソガラスです。大きさはハシブトガラスが少し大きく、声もハシブトガラスが澄んだカーカーに対して、ハシボソガラスは少し濁ったガーガーと鳴きます。カラスを見かけたらぜひ、どっちのカラスか確認して見てください。

あともう一つ、違いがあります。それは明らかにハシブトガラスのおでこが、ハシボソガラスに比べて出っぺっています。いかにもヘディングが得意そうなのがハシブトガラスです。因みに、日本サッカー協会の3本足のカラスはハシブトガラスだと私は思います。

(高梨)

※日本サッカー協会より引用



ハシブトガラス



ハシボソガラス



生き物 ★イノシシ★

愛川ふれあいの村には、多種動物の訪問客がある。サル・シカ・タヌキ・イノシシ・アナグマ・ハクビシン等。中でも濃厚な来訪者はイノシシだ。

イノシシ村内いたる所に、鋤で耕したかのような痕跡を残す。丈夫な鼻づらで土を掘り、好物のミミズを食べるのだ。

困ったことに、彼らには掘る場所に見境が無いことだ。特にサッカーコートの芝地を荒らしてくれると後始末が大変！ついにコート4面分の広いグラウンドに、電気ショックのバリアを張り巡らせ対処している。

今年も4月、村内の有るモウソウチクの林に現れ、若いタケノコをほじくり返して去った。これからも、ふれあいの村とイノシシのお付き合いは続きそうだ。(河野)



旬 ★ニラ★

ニラは、東アジア産で日本でも古事記や万葉集にも出てくるほど古くから親しまれ、食されてきました。独特の香りを持ち、カロテン、ビタミン B2、ビタミン C、カリウム、カルシウム等含む栄養抜群の野草です。

プランターでも庭の片隅でも植え付ける事ができ、一度植え付けると何度でも収穫ができます。

ニラは、いろいろなお料理の食材として重宝しますが、気をつけなければいけない事があります。食中毒です。ニラは、毒性の強いスイセン・彼岸花ととても良く似ています。花が咲き終わった後、間違えて食べてしまう人が多いようです。まず収穫したとき、ニラ特有の臭いがあるか確認してから食べてください。(菅原)



オトギリソウ 来月の見どころ

オトギリソウは小さくてあまり目立たない植物であるが、黄色い花が一輪見つかるとその周辺で意外と多く見つかることがある。花は「一花ぼんぼり」で、五枚の花弁に小さな黒い線点が見られる。楕円形の葉は茎を包むように対生し、上下で重ならないように工夫されている。葉にも小さな黒い線点がたくさん見られ、日当たりの良い山野に小さな群落をつくって生えている。

オトギリソウは、『弟切草』と書き名前の由来を調べるとなるほどと思う。昔、鷹匠をしていた兄が鷹の傷に効く薬草をこの草を原料にして作った。秘密の薬草を、弟が人に漏らしてしまったことに兄が激怒し弟を切ってしまったという悲しい話があり、花や葉にある黒い線点は弟の血の名残と言われている。

シロツメクサは、ガラス製品を梱包するときに詰め物(ツメクサ)として草を詰めたこと、スミレは花の形が墨入れ(スミレ)に似ていることなど、名の由来を調べるとその植物がより興味深くなってくると思う。(吉田)



血の跡のような線点